

みんな 平和で みんな いい

所 属	愛知県 名古屋市立 高針小学校	実践者	松本 隆史 (L)
対 象	小学6年生	時間数	18時間
場 所	教室 体育館 JICA 地球広場	実践教科	国語科 社会科 総合的な学習
ねらい	国際社会を生きる日本人として世界に目を向け、平和な世界を築くために、自分ができることを考える。		
実 践 内 容	回	プログラム	備 考
	1～7	1. 平和って何だろう？ ① 資料を読み、平和について自分の考えをもつ。 ② グループで、平和についての考えを広げる。【プレスト】 ③ 平和についての意見文を書く。 ④ 同じ視点の者で、互いの意見文を読み合う。【グループワーク】 ⑤ 同じ視点のグループで提案文を作る。【グループワーク】 ⑥ 提案文を発表し合い、提案について意見交流会を行う。【討論会】 ⑦ 自分の考えを見直し、平和を築くための考えをもつ。	資料『平和の礎を築く』 模造紙 学習プリント1 学習プリント2 学習プリント3 学習プリント4
	8・9	2. この国 日本？ ① 日本との同一性に気付く。【グループ対抗クイズ】 ② ラオスの魅力に触れる。【フォトランゲージ】【実物体験】 ③ ラオスの抱える問題点を予想する。【フォトランゲージ】	パワーポイント1 学習プリント5 ティップカオ・ドライフルー ツ・漉き紙・セバタクロー・ 巻きスカート
	10・11	3. 困ったときはお互い様。 ① 不発弾による被害を知る。【フォトランゲージ】 ② 不発弾問題解決に取り組む日本の支援の現状を知る。 ③ 日本が東日本大震災の時に受けた支援の状況を知り、 世界が互いに支え合っていることに気付く。【数字クイズ】 ④ 日本もラオスと同じように不発弾の問題を抱えていることに気 付き、不発弾問題を自分ごとと捉える。【クイズ】	パワーポイント2 学習プリント6 映像資料『UXO』
	12・13	4. 世界って面白い。 モルディブで活動した青年海外協力隊員を講師に招き、人々の 暮らしと支援活動、地球温暖化による問題点を知る。	講師 海外協力隊 OB 鉦田直史さん 学習プリント7
	14～16	5. 初めて知る世界。 地球広場での体験を通して、世界の現状を理解するとともに、 ザンビアで農業支援活動を行った協力隊員との出会いから、国際 支援活動の魅力と必要性に気付く。	校外学習のしおり ウガンダ給食 JICA 地球広場体験 講師 海外協力隊 OG 小笠原直美さん パワーポイント3 学習プリント8 映像資料『メッセージ』 模造紙・付箋
	17・18	6. 自分にできること。 これまでの学習から、日本と世界の平和のために自分が できることを考える。【KJ 法】	
成 果	国際社会を生きる日本人に出会い、話を聞いたり、体験したりすることで、世界の魅力に触れると共に、その課題に気付くことができた。そして、平和な世界を築くために、課題解決に向け、自分ができることを考えることができた。		
課 題	子どもの世界に対する興味・関心は高まり、世界の課題解決に向け、自分ができることを考えることができた。今後は、課題解決のための行動化の支援を行う必要がある。		
備 考			

[授業実践の詳細]

1-7 時限目「平和って何だろう？」

1 子どもの活動の流れ

- ① 資料を読み、平和について自分の考えをもつ…原爆ドームの世界遺産登録をもとに、平和とは何かを考える資料『平和の礎を築く』から、筆者の考える「平和」を読み取り、平和について自分の考えをもつ。
- ② グループで、平和についての考えを広げる…「平和とは」をテーマに、ブレインストーミングを行い、平和についての多様な見方・考え方を肯定的に捉える。さらに、「平和ではない状態とは」をテーマにブレインストーミングを行い、平和についての見方・考え方を深める。
- ③ 平和な未来を築くために自分たちができることについて意見文を書く…1. 自分の考え 2. 考えの根拠 3. 予想される反論とそれに対する考え 4. 自分の考えのまとめ という様式で意見文を書く。
- ④ 同じ視点の者で、互いの意見文を読み合う…互いの意見文を読み合うことで、様々な根拠に触れ、自分の考えの根拠を確かなものとする。
- ⑤ 同じ視点の者同士でグループで提案文を作る…意見交流会で発表する提案文を、話し合いによって、自他の多様な根拠を踏まえて作り上げる。
- ⑥ 意見交流会を行う…「平和な未来を築くために自分たちができること」をテーマに、互いの意見文を聞き合い、質問し合うことで、異なる視点の考えと根拠に触れ、自分の考えと根拠を広げたり、深めたりする。
- ⑦ 自分の考えを見直し、平和な未来を築くために自分ができることについての考えをもつ。

この時限のねらい

歴史学習の成果を踏まえ、平和というものについて、自分の考えをもち、平和な未来を築くために、自分たちができることを、様々な考えに触れながら考える。



2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ ブレインストーミングによって、平和についての様々な考えを肯定的に捉え、平和とは何かについて自分の考えをもつことができた。ボランティア活動に興味のあるA児は、「たくさんの人々が譲り合うこと」が、平和を築くために最も大切なことだと考え、自分の経験とそれによる気持ちの変化を根拠として意見文を書いた。子ども達の意見文の内容から「協力」「心」「戦争」「暮らし」「いじめ」の5つを同じ考えの者同士のグループとし、グループでの話し合い活動により、考えの根拠を増やした提案文を書くことができた。
- ◇ 意見交流会後、A児は、「自分たちがいかに、他の国よりもよく生活できているか、また、安全に暮らすことがどれだけ大切か分かった」「戦争が無くなるから平和とは言えないけれど、戦争があるよりは安全にいられるし、誰も傷付かない」「まずは国民が優しい心や思いやりをもって行くことが大切」という3つの考えを根拠に、平和な未来を築くために大切なことを、心・いじめ・協力から暮らし・戦争・心に変化させた。



8-9 時限目「この国 日本？」

1 子どもの活動の流れ

- ① クイズ「この国、どこの国？」・・・1から7までのヒントを順番に聞き、ヒントごとにどこの国のことかグループで話し合う。
- ② 映像ヒントから答えを見つけよう・・・フォトランゲージやセパタクロー体験、ドライフルーツの試食体験、漉き紙に触れる、巻きスカート体験などから、この国を肯定的に捉え、どこの国のことかグループで話し合う。

この時限のねらい

日本とラオスの同一性に気付
き、ラオスの抱える問題を自分ごと
として予想する。

映像ヒント レストランにて



ティップカオの中には、
ホカホカのお米(カオニャニ)。



市場にて



食料自給率100%



朝6時 町角にて



仏教を信じる国民



【50人にアンケート】
一番大切なものは？

1位	家族	58%
2位	勉強	12%
3位	仕事	10%
4位	食事	8%
5位	先生	6%
6位	友達	4%

- ③ ラオスの問題点を予想しよう・・・映像ヒントから、この国がラオスであり、ラオスは「食料が豊か・人が穏やかで争いが嫌い・自然が豊か・家族を大切にする・絆が強い・エネルギー十分・伝統文化を大切にしている」国であることをつかんだ後、何か問題を抱えているのかを話し合い、各自の予想を立てる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 世界には 195 か国の国々があることを確かめた後、「この国どこの国？」クイズを行った。A 児のように、1～7のそれぞれのヒントに対して「日本」と予想した子どもが大半であった。映像ヒントから、答えが「ラオス」であることを知った A 児は「予想した日本と違ってビックリした。ラオスについてたくさんのが分かった。また違う国でもやってほしい」という思いをもった。クラスの全員がラオスと日本の同一性に気付き、ラオスと世界を肯定的に捉え、興味をもつことができた。A 児は映像ヒントから、ラオスの問題点を「病院などの施設が少ないのではないか」と予想した。子ども達は「戦争」9人「病院」8人「貧しさ」10人「環境」4人「教育」3人「問題なし」2人と予想した。

3 使用した教材

- <教材1>セパタクロー
- <教材2>ドライフルーツ
- <教材3>巻きスカート
- <教材4>7つのヒント



- 1 主食は米である。
- 2 家の中では、くつを脱ぐ。
- 3 サッカーが人気。
- 4 仏教を信じる人が多い。
- 5 紙すきが有名。
- 6 昆虫を食べる。
- 7 国旗は、中央に丸。
赤色と白色が使われている。

10-11 時限目「困ったときはお互い様。」**1 子どもの活動の流れ**

- ① フォトランゲージ…不発弾による被害を知る。
- ② 不発弾問題解決に取り組む日本の支援の現状を知る。
- ③ 数字クイズ…日本が東日本大震災の時に受けた支援の現状を知り、世界が互いに支え合っていることに気付く。
- ④ クイズ「これってどこのこと？」…日本もラオスと同じように不発弾の問題を抱えていることに気付く、不発弾問題を自分ごととして捉える。

この時限のねらい

ラオスにおける不発弾除去支援活動を通して、世界は互いに支え合っていることに気付く。

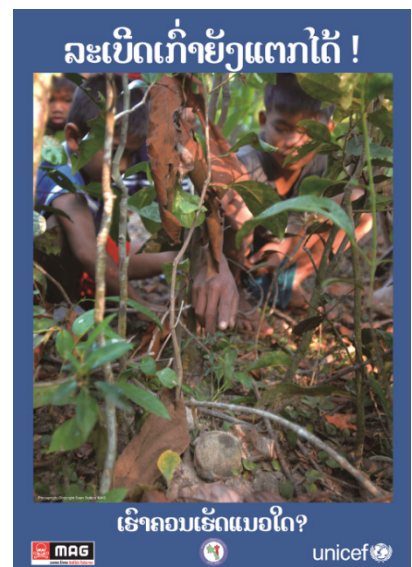
**2 子どもの活動の成果・反応**

- ◇ UXO LAO のポスターでは、ラオスの子どもがクルミのようなものに手を伸ばしていた。子どもはクルミのようなものは何かを予想した。「木の実?」「キノコ?」「クルミ?」と答えた子どもは映像資料から、その答えを読み取った。ベトナム戦争時の生々しい空爆の VTR には、爆撃機から落とされる爆弾が2つに割れ、その中から無数の「クルミ」がばらまかれ、地上を焼き尽くす様子が映し出された。「えっ、爆弾!!」衝撃を受けた子どもたち。続いて「9年間」「8分に1回」「1人1トン」は何を表しているかをグループで話し合った。「9年間、8分に1回の割合で、一人につき1トンの爆弾が落とされた」という悲惨な状況に、子どもは一層衝撃を受けた。さらに、今日でも「クルミ」＝「クラスター爆弾」が不発弾としてラオス国内に多数存在し、多くの被害を出していることを、片手と目を失った人物写真から知った子どもは言葉を失った。
- ◇ UXO LAO の林専門員の姿から、日本の支援を知った子ども達は、日本の支援がラオスの人々の平和な暮らしの役に立っていることに「日本はいい国だなあ」と感じた。そんな子ども達に「174」という数字と各国の国旗が描かれた東北地方の地図、「16400000000」という数字を示し、何を表しているのか予想させた。正解が東日本大震災の時に、174 か国から救助隊が駆けつけ、1640 億円という義援金を世界中の人々が日本のために送ってくれたことを知った A 児は、「日本がたくさんの国に支援を受けたことに感動した。これからも世界中の国々が協力し合えたらいいな」という思いをもった。子どもの多くが A 児のような思いをもつことができた。
- ◇ 「ラオスは不発弾が埋まっていたかわいそう」「日本人でよかった」という思いをもった子どもがいた。そこで、とある場所の浄水場から不発弾が発見され、大勢が避難したという最近の新聞記事を提示した。「ラオスのことだね」と考えた子ども達だったが、それが名古屋市鍋屋上野浄水場であることを知って驚いた。そして、日本も 12 万発以上の不発弾が見つかっており、現在も発見され続けていることを知ると、ラオスでの不発弾問題を、人ごとではなく、自分ごととして考えるようになった。

3 使用した教材

<教材5> ユニセフポスター

<教材6> UXO LAO 不発弾啓発 VTR <教材7> 東日本大震災における各国の支援地図



12-13 時限目「世界って面白い。」**1 子どもの活動の流れ**

- ① アッサラーム アレイコム！ …銭田直史さんとの出会い
- ② アイスブレーキング…ハンガーバスケットで世界の格差を感じよう。先進国・開発途上国に分かれた子ども達にポテトチップスを配る。先進国には多く、開発途上国には少なく配ることで、富が先進国に集中し、開発途上国には行き渡っておらず、多くの人々が貧しい現実気付く。
- ③ モルディブの魅力に触れよう…自然の美しさ、人々の優しさを講師の話から感じる。
- ④ モルディブの問題を知ろう…地球温暖化による海面上昇のモルディブへの影響を知る。
- ⑤ 自分にできることを考えよう…美しい島国モルディブを守るために、自分ができるところを考える。

この時限のねらい

モルディブで活動した青年海外協力隊員の体験談から、モルディブの文化と支援活動、地球温暖化による問題点を知り、自分にできることがあることを知る。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「アッサラームアレイコム！」元気なあいさつで始まった銭田さんの講演会。本校では毎年、国際学級として、青年海外協力隊経験者を講師に招き、世界の様子や開発途上国への支援活動を学ぶ機会を設けている。近年では、エジプト・マーシャル・モルディブの文化や生活、そこで活躍する日本人のことを子ども達は学習した。今回の講演で、子どもたちはモルディブの自然の豊かさとそこに住む人々の心の豊かさを、銭田さんのモルディブへの愛情と持参された多数の実物資料や写真資料から感じ取ることができた。
- ◇ 海が大変美しいモルディブ。しかし、ごみ問題や地球温暖化による海面上昇で水没する危険があるという。その海面上昇が、自分たちの使っているエアコンや自動車から出る熱であることを知った子どもたちは、自分たちにできることはないかと考えた。銭田さんから、「今日聞いた話を家族に話すことも、みんなができるひとつだよ」と教えてもらって、自分たちができるところが、節約や呼びかけであることに気付くことができた。
- ◇ 自分たちにできる国際貢献として、世界寺子屋運動の参加を国際交流委員会の子供達が、全校児童に呼びかけた。すると、400枚程の書き損じはがきを集めることができた。



14-16 時限目「初めて知る世界」**1 子どもの活動の流れ**

- ① ウガンダ給食を食べよう・・・JICA 中部を訪問し、アフリカの一般的な昼食であるポショとインゲン豆のトマト煮を食べることで、1食につき20円の寄付ができる Table for two を体験するとともに、食文化を体感する。
- ② JICA について知ろう・・・JICA 職員の古川さんより、日本が開発途上国に行っている支援の様子を聞き、理解する。
- ③ 協力隊員の体験を聞こう・・・ザンビアで農業支援を行った小笠原直美さんから、ザンビアの文化や人々、行った支援活動のことを聞き、JICA ボランティアを理解する。
- ④ 地球ひろばで、世界を知ろう・・・地球案内人のガイドで、世界の現状に気づき、自分ができることを考える。

この時限のねらい

世界の現状に気づき、解決すべき課題に立ち向かっている人々の活動を知る。

**2 子どもの活動の成果・反応**

- ◇ 「アフリカのご飯まずそう」と言っていた子どもたち。しかし、JICA の建物に入り、外国人とすれ違い、協力隊員と現地の人々の笑顔あふれる写真を見て、Table for two の話を聞くと、「結構おいしいね。おかわりある？」と言う子どもも多くなった。ポショに手こずる子どもが多かったが、残す子どもはほとんどなく、ウガンダ給食を食べる意味を理解することができた。
- ◇ ザンビアを知っている子どもは一人もいなかったが、小笠原さんの講演の後は、90%以上の子どもが、ザンビアはアフリカのどこにあるのか言うことができた。それだけ、興味をもって話を聞くことができた証である。子ども達は小笠原さんの協力隊員としての経験談からアフリカを身近に感じる事ができた。
- ◇ 地球ひろばでは、食をテーマにした企画展を開催中であった。子ども達は毎日食べる食が、世界とつながっており、世界とのつながりなしには、自分たちの豊かな食生活が維持できないことに気付かされた。さらに、食べることができなくて死んでいく子どもが大勢いる反面、日本では多くの食料がゴミとして捨てられている現実には衝撃を受け、先進国と開発途上国の間には大きな格差があることに気付くことができた。

3 使用した教材

<教材8> ウガンダ給食



<教材9> なごや地球ひろば



17-18 時限目「自分にできること。」**1 子どもの活動の流れ**

- ① ラオスからのメッセージ…ラオスで活動している協力隊や専門家からの自分たちへのメッセージを聞きとる。
- ② 世界を平和にするために、できることを考える。

この時限のねらい

世界で活躍する人たちの姿と自分達へのメッセージから、自分ができることを考え、実行しようとする。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ UXO LAO で不発弾除去支援をしている林さん、青少年へバレーボール指導をしている本間さん、県病院で看護支援をしている福島さんの自分たちへのメッセージから、子どもは平和を築くためには様々な方法があること、世界で活動することは高いハードルではないこと、得意なものを生かして平和を築くことができることを捉えることができた。
- ◇ KJ 法により、世界を平和にするために自分たちができることを考えた。子ども達は、これまでの学習の成果を踏まえ、今できる募金活動や節約、将来できることなどを考え、行動しようと思うことができた。

3 使用した教材 <教材10> 専門家・協力隊のメッセージ(林さん、本間さん、福島さん)**全体を通して****1 子どもの変容**

- ◇ ある子どもの卒業文集の一部である。

『社会科で外国のことや国際化のことを習いました。日本とは真逆に貧しい生活をしていたり、伝染病に苦しんだりしている人たちがいる国があることを知りました。そこでぼくは「こういう人たちの役に立てたらいいなあ」と思いました。そして、貧しい国に病院を建てて一人でも多くの人を助けたいと思いました。そこで、ぼくは思うだけじゃいけない「努力」が大切だと気付きました。もっとたくさん勉強し、いい大学に入って、医療の会社の社長さんになることを決めました。なぜ、医者じゃなく医療の会社の社長さんかというと、病院の近所の人たちと仲よくしたいからです。近所付き合いにこだわり、何事も仲よく、思いやりが大切だと思います。』

- ◇ この子どもは、今回の実践によって、将来の夢と目標をもち、それに向けて努力しようと思うことができた。多くの子どもが未来への夢と希望、目標をもって努力することができれば、世界は平和になる。そのための支援を今後も継続したい。それが我々教師のできる平和を築くための支援活動である。

2 参考文献・資料

- 1) 菊池陽子/編著 鈴木玲子/編著 阿部健一/編著『ラオスを知るための60章』明石書店
- 2) (公財)愛知県国際交流協会『世界の国を知る・世界の国から学ぶ 私たちの地球と未来(ラオス)』